



■発行年月日/2016年1月1日 ■発行/独立行政法人国立病院機構千葉医療センター ■発行責任者/院長 増田政久 ■編集者/副院長 杉浦信之  
〒260-8606 千葉市中央区椿森4-1-2 Tel 043-251-5311 Fax 043-255-1675 <http://www.hosp.go.jp/~chiba/>



「成田山新勝寺」

撮影：保田 恭 (リハビリテーション科)



### あけましておめでとうございます

院長 増田政久

あけましておめでとうございます。今年も皆様方にとって良い年になりますよう祈念いたします。

さて、昨年の世相を表す漢字一文字は「安」でした。

大戦後70年という節目の年に国の「安全」保障にかかわる論議や法案の成立、パリ同時多発テロに代表される

世界各地でのテロ報道、「不安定」な気象による関東・東北豪雨など「不安」な気持ちを抱かせる出来事が多くあったからではとされています。

少なくとも医療では「不」をつけない本来の「安定」、「安心」、そして「安全」を標準的に皆様に提供できるよう引き続き頑張って参りますので、ご指導・ご鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。

7th ANN (四尺)

創立70周年記念式典開催	2
連携医院紹介	3
地域医療連携室だより / トトロのクリスマス	4
がん患者サロン・プロヴォックス患者交流会	4
診療トピックス	5
ANECDOTA 一隠れた史実	6
QC活動「優秀賞」 / 栄養管理室だより	7
結核アウトブレイクの終息 / 市民健康づくり大会	8
4病院連合臨床研修プログラム / 病棟・外来紹介	9
千葉看護学校だより	10
市民健康セミナー/専門外来・検査担当医師表/編集後記	11
外来担当医師表	12

主な行事予定

- 1 / 4 仕事始め
- 1 / 14 看護学校一般入学試験
- 1 / 23 災害対策訓練
- 1 / 28 第152回市民健康セミナー
- 2 / 25 第153回市民健康セミナー
- 3 / 24 第154回市民健康セミナー

# 創立70周年記念式典

## ～信頼される医療を築く Building Trust～

平成27年12月1日に千葉医療センターは、昭和20年12月1日に旧陸軍病院から厚生省（現：厚生労働省）が管轄する国立病院として誕生し70周年を迎えました。これを記念して平成27年11月8日(日)には、当センターの理念であります「信頼される医療を築く Building Trust」を掲げ、地域の医療機関の皆様を中心にご来賓として迎え、職員の参加と併せて約180名という式典となりました。

式典は、千葉医療センターの今を知っていただくためのビデオ上映から始まり、増田院長の挨拶、続いて森英介衆議院議員、田畑陽一郎千葉県医師会会長、岡本美孝千葉大学医学部附属病院副院長の方々からご祝辞をいただき、引き続き特別講演を開催いたしました。特別講演は、2025年に向けた医療と介護の連携と地域包括システムの構築といった改革が推進されていることに際して、特別講演Ⅰでは、在宅ケア移行支援研究所／宇都宮宏子オフィスの宇都宮宏子先生をお招きして「地域で暮らし続ける（aging in place）ために」～どう生きたいかを地域で支える～と題した特別講演をしていただき、特別講演Ⅱでは、「2025年に向けた千葉市の保健医療」をテーマに熊谷俊人千葉市長にご講演いただきました。共に出席された方々の関心の深い内容でしたので講演に関する質疑も活発に行われました。

式典、特別講演後は、祝賀会に移り、田嶋要衆議院議員、入江康文千葉市医師会会長、古元重和千葉県保健医療担当部長、篠塚賢藏なのはな会会長・元関東信越地方医務局次長の方々のご祝辞、当センターの70年のあゆみと各診療部等の紹



院長挨拶



在宅ケア移行支援研究所  
宇都宮宏子オフィス 宇都宮宏子氏



千葉市長 熊谷俊人氏

介へと進行いたしました。

この式典を開催したことにより、平成27年4月に千葉県より「地域災害拠点病院」の指定を受けたこと、そして「地域医療支援病院」、「地域がん診療連携拠点病院」の指定とともに当センターが地域の中核病院として医療を展開していることの再認識とご出席いただいた地域の医療機関の皆様との更なる地域医療連携への繋がりができたものと思います。（事務部長 三井光義）

## 院長挨拶要旨

院長 増田政久

平成二十七年、当院は創立七十周年を迎えました。昭和二十年十二月に施設はそれまでの陸軍病院から厚生省に移管され国立千葉病院となり、その後平成十六年四月に国立病院の独立行政法人化に伴い、独立行政法人国立病院機構千葉医療センターと名称を一新し衣替えしたことはご存じのことと思います。また現在の病院は創立六十周年を迎えた年に建て替えが承認され、その後の紆余曲折を経て平成二十二年に竣工を迎えることができました。新病院建設は長いこと職員の悲願であり、竣工に至った時や引越しの時に多くの皆さんが夢は叶うものだと言喜びを表していたことや先人たちが築き上げてきた地域医療に対する実績と信頼があつてこそできた新病院であることを肝に銘じたことをこの間のこのように思い出します。

超高齢化社会の到来のスピードは思いの外早く、医療行政や病院を取り巻く環境が大きく変わりつつあることを最近とくに実感します。国は急速な高齢化に対する社会保障関係費の伸びを抑制し、持続可能な社会保障制度を確立する方策としていわゆる「医療・介護総合確保推進法」を成立させ、各種法整備に着手しています。とくに医療では地域ごと（二次医療圏）の事情を病床機能報告制度などにより把握、そこから推計される将来（具体的には二〇二五年）の医療需要にあわせた医療供給体制（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）の構築いわゆる地域医療構想を各都道府県ごとさらには各二次医療圏単位で策定することを求めています。さらに医療から介護へのスムーズな移行、介護予防さらには自立のための生活支援まで地域で包括して確保する（地域包括ケアシステム）こととし、今までの病院完結型医療から地域で診る医療・介護に大きく舵を切ることになりました。しかしこの制度の導入により住み慣れた地域で安心して暮らせるはずの患者さんたちがこの構想をどの程度理解されているのか大いに疑問です。急性期医療を提供する当院が今後どのような医療を供給、提供するのかわかるのか？を地域の医師会ならびに医療施設と協議・相談を重ねながら自院の立ち位置を決めていきたいと思っております。



## 連携医院紹介

### 北部診療所

千葉市稲毛区天台3-4-5

☎ 043-251-8131

所長 秋谷弘樹

平素より千葉医療センターの先生方、スタッフの皆様には大変お世話になっております。

当院は創立六十年となる2015年5月にリニューアルいたしました。広くて明るい待合室など職員はもとより利用される患者家族のみなさんからも喜ばれているところです。

診療内容は小児から高齢者、急性期から慢性疾患、予防接種、健康診断など幅広く対応できるよう努め、レントゲンや心電図の他、胃カメラや腹部エコー、心エコーなども予約制でおこなっております。

診療時間は(月)～(土)の午前外来、(月)(木)の午後外来そして(月)～(金)夜6時半から8時までの夜間外来となっています。その他、強化型在宅支援診療所、通所リハビリテーション(デイケア)、居宅介護支援事業所として医療だけでなく介護の分野も携わっており、新築に伴い、てんだい訪問看護ステーション



ションも同じ建物内になり連携を強めております。

介護保険が始まる前から取り組んでいたデイケアはようやく入浴設備が整い、「リハビリだけでなく入浴も」と希望されていた利用者さんからも大変喜ばれていますし、ケアマネ事業所からの新規ご紹介も増えています。

これらを行っていくうえでも、医療センターがひかえてくださる安心感があり、特にがん検診の精密検査・大腸ファイバー、在宅患者さんの入院相談や泌尿器科の受診など快く受け入れてくださり感謝しております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

### ゆかわクリニック

千葉市中央区登戸3-6-15

☎ 043-246-3388

所長 湯川明和

初めまして。2015年9月7日に登戸にクリニックを開業した湯川と申します。私は中学生の時から千葉で育ち、医学部を経て茨城で医者としての初期研修を行い、以降10年以上にわたって同地域医療に携わってきました。

専門は循環器であり、主に心不全、狭心性、心筋梗塞、不整脈を治療分野としておりましたが、その他の急性疾患も多く経験し、非常に充実した毎日を送っておりました。総合病院の勤務医は外来、病棟、検査、救急、夜間救急当直と仕事が多岐にわたり、その中で私が最も魅力を感じたのは患者様と会話をする(特に外来)でした。私の年齢になりますと今後の自分に関してどうしたらいいのか迷われる医師がいると思います。医師として今後一生やっていくのであれば一番やりたいことをやろうと考え、周囲の方から多大な支えをいただき、このた

び育った地でクリニックを開業することができました。

開業して3か月しか経っていませんがもっとも痛感したことは「総合病院の勤務医先生方への尊敬の念」でした。24時間365日急患に対する対応は想像を絶する肉体的、精神的負担を受けます。そのストレスに耐え、日々の医療を行っている先生方に尊敬の念が絶えません。

開業医として立場が変わった自分が今やるべきことはしっかりとした専門性を患者様に提供するとともに専門外で分野での知識もしっかり身につけ、自分で対応できるものは自分で、できないものに関しては患者様、紹介機関双方に納得をしてもらえる対応、紹介をすることだと考えます。今後皆さんの希望に添えるよう日々研鑽を積む所存でありますのでよろしくお願い致します。



# 地域医療連携室だより

## 医療機器の共同利用について

当院では、地域医療連携の一環といたしまして、医療機器の共同利用を行っております。

これは、当院より設備の提供をさせていただき、その結果説明は地域の先生方をお願いするものであります。

医療機器のみの提供となるため、ご依頼元の医療機関にて「診察料」「検査料」を算定し、当院では検査料相当分

をご依頼元医療機関に請求させていただく運用となります。この場合は、書面にて「委託契約」を交わす必要がございますので、ご希望される医療機関の先生方につきましては地域医療連携室までご連絡いただきたくお願い申し上げます。

今後もより一層地域医療へ貢献するため、様々な取り組みを行いたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 当院で行っている医療機器の共同利用

- 乳房撮影検査 委託契約件数1件
- 骨塩定量検査（DEXA法による腰椎撮影）委託契約件数11件
- 血圧脈波検査（ABI）※動脈硬化の検査
- 頸動脈超音波検査 ※動脈硬化の検査
- 下肢静脈超音波検査 ※深部静脈血栓症の検査
- 神経伝導検査 ※糖尿病の検査

9月より案内  
開始しました

不明な点、お問い合わせ等は地域医療連携室までお願いいたします。



（地域医療連携室 鈴木 勝）

## トトロのクリスマス

毎年、冬に開催しているトトロのクリスマス会を12月20日（日）に開催しました。

近隣住民及び入院患者さんへの冬のイベントとして実施しているもので、永田ダンスシティ他、多くのボランティアの皆様による歌やダンスを披露していただき、また、ニチグリーンファームからは5匹のワンちゃん達が癒しを与えてくれ、さらに今年もチーパくんが駆けつけてくれました！

ご来院の多数の住民の皆様や患者さんに見てもらい聞いてもらい、楽しいひとときを一緒に過ごすことができましたことを感謝いたします。ご協力ありがとうございました。（管理課）



## がん患者サロン プロヴォックス患者交流会 開催案内

開催日：1月22日/2月26日/3月25日/4月22日

場所：千葉医療センター内会議室（当日、道順案内を掲示します。）

対象：主として、がん体験者及びそのご家族です。どちらの医療機関におかかりでも参加できます。（予約不要、参加費は無料です。）

お問い合わせ先：TEL 043-251-5311(代表)  
（経営企画室 久米）



## 診療トピックス ⑥0

### ピロリ菌と胃癌について

#### ◆ピロリ菌研究の歴史◆

ヘリコバクター・ピロリ菌（以下ピロリ菌）は今から30年余り前（1983年）にオーストラリアの2名の医学者によって発見、報告されました。腸には無数の細菌が生息していますが、胃の中は塩酸（胃酸）が満ちており、細菌は生息できないと当時は考えられていました。しかしこの細菌は胃に住み着いていたため、世界中の多くの人々がその事実には驚きました。

当初はまず、胃潰瘍・十二指腸潰瘍との関連が指摘されていましたが、その後世界中で研究され、胃癌をはじめとした様々な疾患との関連も指摘され、注目される細菌となりました。胃・十二指腸潰瘍は胃酸分泌を抑える胃薬により比較的容易に治りますが、胃薬を止めると高い頻度で再発します。しかしピロリ菌の除菌に成功すると、ほとんど潰瘍の再発がなくなり多くの患者さんは胃薬から解放されます。

この発見によって前述の医学者はノーベル医学・生理学賞を受賞しました。そしてさらに研究が進められた結果、胃癌との関連も極めて濃厚となり、ピロリ菌の除菌は胃癌予防に大きな効果をもたらすと考えられるに至っています。

#### ◆ピロリ菌と胃癌の関連◆

1994年にWHO（世界保健機構）は、大規模な疫学試験の結果に基づいて、ピロリ菌を発癌性が確実な微生物と認定し、ピロリ菌と胃癌の関連が注目されるようになりました。その後スナネズミを用いた動物実験で、ピロリ菌と胃癌との因果関係が明らかにされました。

人がピロリ菌に感染してから胃癌が発生するには以下の経過をたどると考えられています。まず感染者の多くは、小児期にピロリ菌に感染してピロリ菌胃炎を起こします。ピロリ菌は、上気道炎や膀胱炎などで通常使われる程度の抗生物質では除菌されず、感染が持続します。この結果、胃粘膜の萎縮が徐々に悪化し、萎縮した胃粘膜が胃癌の母地となり胃癌が発生します。

しかし、ピロリ菌感染者のうちで胃癌が発生するのはその一部であり、胃癌発生には、食物や家系や男女差といった要因の関与も指摘されています。しかし上村らの報告では、ピロリ菌感染者1200人余りを約8年間追跡した結果、36名（2.9%）に胃癌が発生し、ピロリ菌非感染者280人からは1例も胃癌が発生しなかったとのことで、現

在ではピロリ菌感染が胃癌に最も密接に関係していると考えられています。

#### ◆ピロリ菌の除菌と胃癌予防◆

それならばピロリ菌に既に感染した人でも、除菌することによって、将来の胃癌の発生を予防できるのではないかと期待されます。そこで、感染者を無作為に除菌群と非除菌群（持続感染群）に振り分け、将来の胃癌発生率を比較する研究が行われました。その結果3年後の胃癌の発生率が、除菌群では非除菌群の3分の1に低下し、ピロリ菌の除菌による胃癌予防の効果が報告されました。

また、動物実験では若い時期に除菌するほど胃癌予防効果が高いことが示されており、人でも同様と推定されています。ゆえに胃癌予防の面からは除菌治療の時期は早いほど良いと言えます。しかし理由は明らかではありませんが、小児のピロリ菌感染の成立は12歳位までと報告されており、15歳以降に感染することはきわめて稀です。したがって、12歳以下の小児期に除菌しても再感染する恐れがありますので、20歳前後で早めに除菌するのが一番効率的と思われるます。

#### ◆ピロリ菌の感染経路と胃癌予防◆

しかしながら、初めからピロリ菌の感染がなければほとんど胃癌は発生しないと推定されます。ゆえに感染経路を明らかにし、新たな感染を絶つことも非常に重要です。ピロリ菌自身は感染力の弱い細菌であり、歯垢や唾液や糞便から検出されるので、主に口から口、あるいは糞から口の経路で感染すると想定されています。そしてピロリ菌に感染している両親、特に感染した母親から出生した小児は感染率が高く、母子間のような長期の密接な接触の結果、感染が成立すると考えられています。

よって、母子間といえども食べ物の口移しやスプーン・はし等の共用を避けるなど感染経路に留意した対応をすること、また20歳前後でピロリ菌の検査を行い、感染者は除菌を行うことで自身の胃癌予防と同時に子供への感染経路を断ち切ることとなり、近い将来胃癌は激減すると期待されます。

（消化器内科 伊藤健治）

出典：杉山敏郎『ピロリ菌と胃がん』

上村直実『Helicobacter pylori Infection and the Development of Gastric Cancer』

# A N E C D O T A (43)

— 隠れた史実 —

元研究検査科長 高澤 博

今回も横浜軍陣病院に関する話です。太田陣屋が主体でここでの手術例数、看護など述べます。J・シッドールの英国への報告書、軍陣病院日記が資料の主体です。ここで戊辰役から発展し北越・東北への展開を俯瞰しておきます(図1)。



図1 越後東北戦への展開と医療団(赤十字印)高田・柏崎~会津がウィリスの巡回した道でもあります。(戦乱の日本史「会津戦争」原図)

白河方面は薩摩藩医療団で、佐藤進(順天堂、24才)が軍医頭取を務め、北越高田では赤川玄樞(長州、30才)が担当し、後柏崎に軍医団が移動しますが、ウィリスを頭取に迎える。平潟では関寛齋(徳島藩、千葉東金出身、38才)が軍医頭取を務めます。この佐藤、赤川、関の三氏はいずれも佐倉順天堂出身で、他方で反政府軍会津藩では、これも順天堂佐藤一族である松本良順(37才)が頭取となり会津軍医療を統括し、同門の三氏とは敵対関係になります。

北越・東北戦線において、前線で手に負えない重症患者は横浜軍陣病院に搬送されます。前線出張病院に関しては関寛齋の詳細な各種の報告が残されていますが、これらについては後に述べることにし、先ずはシッドールの報告から前号に続けてみていきます。

彼が手がけた患者総数は約1千名(横浜軍陣病院では503名収容され、江戸大病院で明治1年11月、治療を開始する時の患者数は264名、明治2年3月勤務を終える時は136名で、実質総数は611名)に及ぶ。死亡者は全部で66名であった。なかで梅毒患者が40名ほどで重症のものも多く、会津若松で感染した症例は侵食性梅毒の形質があるように見えた。しかし、彼はその治療法には触れていない。戦傷での骨折例と手術例の実数を報告している。ここ

	患者	回復	死亡	入院中
大腿骨切断	15	1	12	2
下肢切断	2	1	1	
足部切断	2	2		
足指切断	2	1		1
上腕骨頭切除	1		1	
腋窩動脈の結紮	1		1	
肩関節切断	3	1	2	
上肢切断	3	1	2	
前腕骨切断	1	1		
片手切断	1	1		
検骨動脈の結紮	1			1
痔瘻の手術	3	3		
木履の穿刺	3	2		1
顔面の菌毒性腫れ物の除去	1	1		
	39	15	19	5

表1 横浜軍陣病院における切断手術例と経過。シッドールの報告。大腿骨切断の成績が良くないことが判ります。

には切断手術症例の表を掲げておきます(表1)。下肢切断の成績が悪いのが判ります。ウィリスの手紙では、未だ下肢切断は経験していないとこれ以前に記載しています。

日本人外科医(日本人医師45名)たちの評価はよく、「概して理解力があり、知識の習得に熱心で、手先が器用であって、彼らとの交際は愉快で親切であった」と。しかし初期のころの評価は「この国(日本)の外科医たちは、嘆かわしいほど

あらゆることに無知であった。医学的知識がないのは言うまでもなく、手当用品、副木、それに包帯の使用法も知らなかったようだ。・・・そのようなものが存在するということさえ彼らの念頭には無い様に思えた・・・」と言っていた。ウィリスが、横浜軍陣病院で、日本人外科医に説明を加えることによって、彼らはほぼ3か月もたと副木の使用法や包帯法を覚えたと。

次に、ここでの医師団、看護・炊事について触れておきます。医局は太田陣屋の教師館(旧幕時代のフランス軍事顧問団居住区)の中二階に開設され、毎朝9時に医員が集合してその日の治療打ち合わせを行った。医局会の嚆矢であると考えられます。薬局は一階に設けられた。医師団は頭取制がひかれ、初代は有馬意進(薩摩藩)続いて柴田宗伯(備州藩)に代わり、7月14日に石神良策(薩摩藩、図2)と交代している。この頭取交代は、来たる東京大病院開設をふまえた人事異動と考えられます。この頭取の下に次席医、御雇医(数名)、御雇手伝いがいた。彼等は新政府に雇用され給与が支払われた。その他に、各藩からの出向医、見習医があり、総勢54名前後の医師がいた。出向医・見習医は戦線から傷病兵に付き添ってきた(病院日記)。他に内科医もいた。



図2 石神良策、薩摩藩医師。宇都宮、白河、横浜軍陣病院、東京大病院、最後にウィリスを伴って薩摩医学学校に赴く。年代不詳。

次に介抱人をみてみよう。彼らは藩からの出向者と、現地採用された者到大別される。備前藩では女介抱人も男介抱人も連れて来ている。各患者に介抱人(看護人)が一名宛就き総勢150名の介抱人がいて、その多くは年増の女性であったそうです。病室を見てみよう。横浜仏語伝習所の生徒の三兵衛伝習所の屯所である太田陣屋は、アラビヤ種馬26頭がナポレオン三世から幕府におくられ太田陣屋にて飼育伝習が約1年間行われた(岡宏三)。シッドールの云う厩はこの飼育伝習の厩であった(中西)。要約すると1長屋(厩の2階部分)に2つの大部屋を有し、その各々が13の小区画になっており、1長屋26名が入院でき、長屋は6棟あったから合計156名を収容できた。予備大部屋が1部屋用意されており、全室使用すると169名入院できた。患者には一名あたり小区画4畳(6.6㎡)が割り当てられた。この広さは、平成5年4月改定の第2次医療法に規定された新築療養型病床群の1病床当りの広さ6.4㎡以上に該当するという(中西)。「病院日記」によると、9月24日の在院患者は最高207名であるから、修分館6名、元勘定役所32名とすると、太田陣屋は169名となり、もはや満床の状況であった。介抱人が一患者に一名ついたとすると、207名の介抱人の在院となる(後に150名に削減)。医師達は平屋の2棟の別棟に宿泊したと考えられる。この様にみえてみると、収容患者207名、介抱人150名、医師45名、医師家来40名、各藩用人15名、新政府御使番5名、使番部下10名と推定してみると、合計大約470名が軍陣病院に在院していたことになる。この大所帯賄うのに、伊勢屋伝次郎(伊伝)、伊勢屋藤兵衛(伊勢籐)の二人が請負った。「病院日記」には、1昼夜1人当たり賄料等の記録が残り、7月7日以降でみると、手負い人：銀9匁、下役人：銀6匁、介抱女：銀15匁とある(銀の価値が元禄期の1/2とすると、銀15匁は500文=2分の1分(現在の金額で約7,500円)に相当し、越後戦線でのウィリスの介抱女の給与記録と一致する。続いて献立の基本が示され、病人・無病人：朝は汁と香の物、昼は一菜、夕は病人は一菜、無病人は汁と香の物とある。傷病の有無によって料理材料は異なるわけだから、同一献立とは考えられないが(中西)。



## 平成27年度国立病院機構QC活動「優秀賞」を頂きました！

看護師長 安藤光子

このたび「入院への架け橋～患者サポートセンターの取り組み～」が、国立病院機構QC活動関東信越グループ27題の中から優秀賞に選ばれ、表彰を受ける事が出来ました。

この患者サポートセンターは、入院や検査説明が患者さんの疑問や不安に十分に対応できるように検討しました。経験豊富な看護師が、患者さんの状況に応じて入院前の説明や検査説明等を行う事で、安心していただけるよう昨年2月より開設しています。今後は、看護師だけでなくより専門に応じた職種が対応できるよう拡大に向けてがんばりたいと思います。



〈現サポートセンターメンバー〉

## 栄養管理室だより

### 「秋の食事フェスタ」、 2年目に入りました

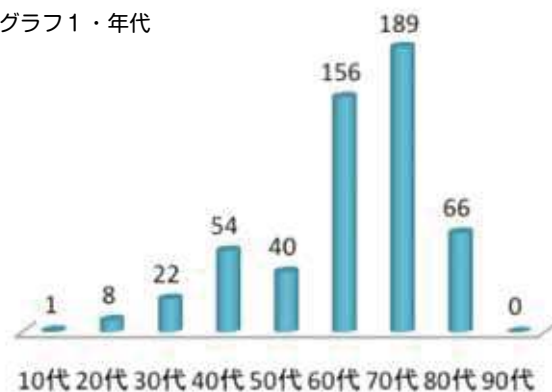
栄養管理室長 宮本佳世子

昨年秋より、四季毎に行っていた「食事フェスタ」が2年目に入り、過日（平成27年11月16日～20日の5日間）開催されました。来場された皆様からは、「フェスタのことは前から知っていて興味はありましたが開催日と通院日が合わず、なかなか食べることが出来なかった。今回ようやく食べることが出来ました。」「前は売り切れてしまった」などのご意見を多く伺い、「食事フェスタ」も2年目を迎え、皆様に浸透してきた印象です。昨年は年4回、計20日にわたり「フェスタ」を開催致しましたが、毎回、アンケートを行い、多くの皆様のご協力を頂きました。ありがとうございました。

その結果、性別では75%近くが女性でしたが、ご夫婦でご来場の場合は奥様がアンケートをご記入されることがほとんどのため集計では女性が多くなっています。年齢は60～70歳代が多く、食事への感想は概ね良好でした。（グラフ1参照）

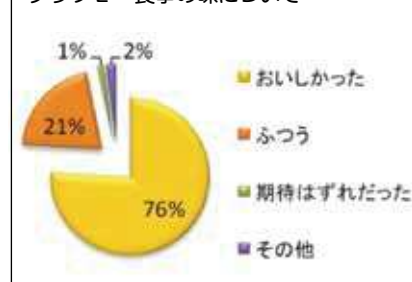
味に関しては76%の皆様に好評でしたが、嗜好やその日の体調などもありますので、この数字は概ね好評価だったのではないかと考えています。「次回の開催を期待するか」という問いに対しては、「食事の味について」と同様の比率でした。（グラフ2参照）

グラフ1・年代



今回の秋のフェスタでは「エネルギー量が下がるほど価格が下がるのはありがたい」というご意見がありま

グラフ2・食事の味について



した。最近の市販総菜や外食産業では「ヘルシー」「健康的」という表記が増えていますが、それらは品質や栄養価を調整しているためか通常の商品より高額な場合も多く、エネルギー量と金額をあわせた企画も、徐々に浸透してこのようなご意見を頂けるようになりました。今後の2年目の「フェスタ」開催に当たり、更に喜んで頂けるものをご提供出来るようメニュー作りに努力したいと思います。

次回は平成28年2月16日（月）からの開催を予定しております。

## 結核アウトブレイクの終息

国立病院機構千葉医療センター  
ICD 金田 暁  
ICN 竹本 真美

平成25年6月に発生した当院の結核アウトブレイク(院内感染)につきましては、関係職員各位や多数の患者さんにご協力をいただき、2年間の観察期間を経て本年10月23日に保健所との協議で終息を宣言するに到りました。今回終息にあたり、その概要と対応について報告させていただきます。

初発は当院病棟に勤務する20代の女性看護師で、長期間続く咳を主訴に平成25年6月10日に当院内科を受診しました。胸部X-P、胸部CTで右上葉に空洞を伴う浸潤影を認め、喀痰検査の結果から6月13日に開放性結核と診断され、同日千葉市保健所へ届出を行ないました。以後は保健所と頻回に連絡をとり、会議を重ねて密接に連携し、その指導の下で対応を決定し実行していきました。

6月21日に千葉市保健所と第1回の合同会議を開催し、接触期間は平成24年9月より平成25年6月10日までの約10ヶ月間とされ、この間に初発職員と接触していた病院職員と入院患者さんを対象に接触者健診を行なうことになりました。結核感染のリスク別に同心円状に職員と入院患者さんをグループ分けし、中心部の感染リスクの高いグ

ループから順次外側へ接触者健診の対象者を段階的に広げていきました。院長をトップとする結核緊急対策会議を設置し、院長の指導の下に頻回に会議を重ね、接触者健診の体制を確立し実施していきました。職員健診の結果結核発症4名、LTBI(潜在性結核感染症:抗結核薬の予防内服を行なう。)11名となり、7月31日報道機関へ発表となっています。入院患者については417名が健診対象となり、結核発症1名、LTBI8名となっています。2年間にわたる接触者健診では、検査のオーダー発行から受付、胸部X線撮影と読影、結果の記録と保健所への報告にいたる一連のシステムを構築し、事務職員、医療事務補助、放射線技師、臨床検査技師、呼吸器内科の先生方にもご多忙の中協力を頂いて実施いたしました。さらには対象となった患者さんにもご協力を頂き、無事終了することができました。ご協力をいただきました皆様には深く感謝申し上げます。

今回の事例から、咳や微熱が続く場合は年齢や基礎疾患に関係なく結核を念頭に診察を行なう、職員の結核が疑われた段階ですみやかに院長を中心とする強い権限の組織を立ち上げ、病院全体の課題として対策を講じる、保健所とは連携を密にし、協議の上で対応を決定し実行していくという3点が教訓としてあげられます。今後この教訓を忘れることなく日々の診療にあたりたいと考えております。

## 市民健康づくり大会に参加して

経営企画室長 久米 俊

「健やか未来都市 ちば 市民健康づくり大会」が10月17日(土)、千葉市中央区にある5つの公共施設と商業施設が入った官民複合ビル「Qiball(きぼーる)」で開催されました。「きぼーる」とは「希望のボール」という意味があります。千葉医療センターも例年にならい参加いたしました。当センターのほかには、千葉市薬剤師会、千葉市歯科医師会、千葉市助産師会、当センター附属千葉看護学校など21団体の参加がありました。

当センターは医師による健康相談、管理栄養士による栄養相談、薬剤師、看護師による血糖値測定、看護師によるスキンケアコーナー、ロコモ予防(転倒防止)、AED・心臓マッサージ、臨床検査技師による頸動脈エコー、診療放射線技師による超音波骨密度測定を行いました。どのコーナーも盛況で、頸動脈エコーは整理券を配らなければならないほど人気が高く、残念ながら測定できなかった市民の方々も大勢出てしまいました。今年から新しく試みた「スキンケア」では多くの女性の方々やお子様へ人気があり、同じく新しい試みの「ロコモ予防(転倒防止)」では、中高年の方が看護師指導のもと一生懸命に手足を

動かしていました。

医師による健康相談では、午前と午後の2部制とし、午前中は当センターの増田院長、午後は金田消化器科医長が担当しました。市民の皆さんも気になるところがあるようで、切れ目なく相談に訪れていました。栄養相談は昼食時間もないほど列に途切れがありません。血糖測定骨密度測定、AEDと心臓マッサージには例年にも増して、多くの方に訪問していただきました。

日頃、市民の皆さんとはあまりふれ合うことはありませんので、こうして沢山の方々とお接することができ、千葉医療センターのピーアールが出来たのではないかと思います。ご協力いただきました関係各位に改めて御礼申し上げます。



心臓マッサージとAED体験



奥から血糖値測定・健康相談・栄養相談



# 千葉県国立病院機構 4 病院連合臨床研修プログラムを新設

教育研修部長 重田みどり

千葉医療センターでは、研修医の教育に力を入れており、2015年4月に2つめの研修プログラムとして、千葉県国立病院機構 4 病院連合臨床研修プログラムを新設しました。国立病院機構の4病院（千葉医療センター、千葉東病院、下志津病院、下総精神医療センター）が、各々の特色を活かしつつ、協力して研修医を指導しています。2016年度も2名の研修医が本プログラムで研修します。引き続きご指導の程お願い申し上げます。

## 4 病院プログラムの研修で得たもの

研修医 江井 裕 紀

千葉医療センターで救急（麻酔科・外科）を、千葉東病院で神経内科・腎臓内科・糖代謝内科・呼吸器内科を、下志津病院では内科・小児科を研修しております。

1年目から様々な病院に行く経験をし、病院・病棟によって指示の出し方のルールが違うなど注意すべき点が沢山あります。ある病院でできたことが他の病院ではできずに戸惑うことも多いですが、苦悩しながら対応している経験はきっと将来に生きてくると感じます。また4病院プログラム初の採用者とのことで様々な場面で目をかけて頂き、当院では学会発表の機会を3度も頂きました。

下志津病院では研修医が経験しておきたい手技を全て回して頂き、週に1度外来で予診を取るなど豊富な経験ができました。千葉東病院では筋萎縮性側索硬化症の患者さんを担当し、透析導入手術も豊富に経験しました。ひとつの病院だけでは経験できないことを沢山経験しています。当院以外では急性期疾患の経験が少ないなど課題もありますが、沢山の方に支えられ恵まれた研修ができています。今後とも御指導宜しく願い致します。



国立病院機構下志津病院



国立病院機構千葉東病院

## 病棟・外来紹介

### 手術室

当院では、13の診療科が手術を行っています。昨年度（平成26年4月～平成27年3月）の手術件数は、4,220件でした。外科（791）、整形外科（362）、産婦人科（343）、頭頸部外科・耳鼻咽喉科（234）、泌尿器科（311）、眼科（1495）、脳神経外科（120）、心臓血管外科（92）、乳腺外科（95）、呼吸器外科（140）、形成外科（166）、歯科口腔外科（26）件です。緊急手術は290件で、月平均は24.2件、緊急手術の多い診療科は、外科、脳外科、産婦人科等です。手術の特徴として、外科では、腹腔鏡手術が外科の手術件数の約半分ほどを占め、昨年度は約350件、今年度の11月までで約230件となっています。腹腔鏡手術は、手術後の痛みが少なく傷が目立たず回復が早く、患者さんに優しい手術です。眼科では「硝子体内注射」を受ける患者さんが増えており、昨年度は、407件、今年度の11月までで約500件となっています。

手術室のメンバーは総勢37名。麻酔科医師5名、看護師22名、業務技術員6名、その他、臨床工学技

士4名で患者さんの安全と安楽を考えた手術を提供できるよう努めています。術前訪問は、手術を受けられる患者さんのほぼ全員に行っています。麻酔科医師と看護師が、患者さんに麻酔や手術の流れなどの説明を行い、安心して手術を受けていただけるようにしています。また、平成25年度より術後訪問を始め、昨年度は225件行っています。対象となるのは、手術時間が長かったり、手術中に特殊な体位で手術を受けられたりした患者さんです。手術室の看護師は、皮膚のトラブルや手術後の様子を確認し、病棟看護師と連携をとり継続看護に努めています。今後も、手術室チーム一丸となり、安全と安心の手術を提供できるよう努めていきたいと思っております。



（看護師長 永田まみこ）

## 戴帽式を終えて

教員 村松優子

平成27年10月20日、第63期生の戴帽式が行われました。学校長先生をはじめ多くの御来賓の方々より温かい励ましの御言葉を頂き、保護者の方々に見守られる中、男子学生はエンブレムを、女子学生はナースキャップを戴きました。

看護の心を受け継ぐ灯火を手に、看護の道に進む決意を「誓いの言葉」として戴帽生全員で声を合わせて述べました。学生たちが何度も話し合い作り上げた自分たちの「誓いの言葉」をご紹介します。

「私たち63期生は、思いやりの心を持ち、常に笑顔で患者さんに接することで、安心感を与えます。そして、個性を尊重できる看護師を目指します。

患者さんと信頼関係を築くために、積極的にコミュニケーションをとっていきます。

確かな技術を身に着け、自立を促すために、患者さんが持てる力を最大限に発揮できる環境を作れるよう努めます。

患者さんだけでなく、その家族の気持ちも理解し、誠実に向き合います。

どんな声にも耳を傾け、その場にあった寄り添いの看護



を提供します。

ご指導して下さる方々、先生方、いつも支えて下さる家族に感謝と敬意を抱き、視野を広げ、共に学ぶ仲間と共に助け合い、看護の力で1人でも多くの患者さんがその人らしく生活できるよう支援することを誓います。」

看護実践者への道は決して平坦ではありません。仲間と助け合い、63期生一人一人が自ら理想とする看護師像に向かって勉学に励み続ける事を願っています。教職員一同、惜しみない支援をしていく所存です。皆さま、今後も学生に温かい御指導をいただけますよう、どうぞ宜しく御願い致します。

## 千葉県看護学生研究発表会に参加して

教員 小宮美絵

平成27年11月20日(金)、千葉県文化会館において千葉県下19校21課程の看護学生が一同に集まり、千葉県看護学生研究発表会が行われました。看護学生が、臨地実習で得た学びを様々な視点から振り返り、まとめ上げたレポートを発表する場です。当校からは2、3年生が参加し、3年生2名が発表を行いました。

□演発表では、石崎里幸さんが「日中独居の療養者の環境を整える看護」という題目で、フローレンス・ナイチンゲールの理論に沿い、訪問看護での環境調整について考察し、発表しました。看護は、人に深く関心を注ぎその人らしさに寄り添っていくことが重要であること。そして環境を整えることは、心身の回復だけでなく療養者の自立へとつながることを明らかにしていました。

また示説発表では、佐瀬智子さんが「統合失調症患者の基本的な生活習慣獲得を促す関わり一退院後を見据えた生



活リズムを整えるために一」という題目で、ハンデューラの理論に基づき「自己効力感」について考察し、発表しました。看護は、与えるものではなく対象の中に秘められた力を信じるのが大切であり、力を最大限に引き出す関わりを探求し続けることの重要性について学びを発表しました。

大会場の質疑応答では、看護学生同士が活発に意見を交流し、学びが深まった一日になったと思います。



## 市民健康セミナーの開催

当院では千葉市民の皆様にご健康な生活を営んで頂くために、少しでもそのお手伝いができればと考え、8月を除く毎月「市民健康セミナー」を当院地域医療研修センターで開催しております。

### 10月・11月・12月に行われたセミナー

10月22日(木)

「今を生きるための『養生』と漢方薬  
～その健康法、あなたにありますか?」  
講師：和漢診療科 永井千草

11月26日(木)

「元気に冬を乗り越える～インフルエンザ等の感染症予防～」  
講師：感染管理認定看護師 竹本真美・大廣澄江

12月24日(木)

「摂食・嚥下障害ってご存知ですか?  
—おいしく、楽しく、安全にお食事をとっていただくために—」  
講師：摂食・嚥下障害看護認定看護師 飯原由貴子  
「一人ひとりに適した食事を自宅でできる調理のポイント」  
講師：管理栄養士 山口萌衣

## 今後の予定

第4木曜日 午後2時から4時  
会場：当院地域医療研修センター

1月28日(木) 「最近の胃がん治療」

講師：外科 福富 聡

2月25日(木) 「胆管がんについて」

講師：外科 土岐 朋子

3月24日(木) 「脳と生活習慣について」

講師：糖尿病代謝内科 岡澤 哲也



第150回市民健康セミナー会場風景

★  
セミナーに10回参加  
された方には記念品  
をさしあげます。

## 専門外来担当医師表

診療科	月	火	水	木	金
和漢診療科		永井千草 8:30～13:00 完全予約制	永井千草 8:30～13:00 完全予約		
腎内科(内科)			上田志朗 <第2・4水曜日>8:30～11:00		
不整脈外来(循環器内科)			上田希彦<第2・4水曜日> 14:00～16:30 完全予約制		
ヘルニア専門外来(外科)				山本海介 13:00～15:00	
緩和ケア外来(外科)		豊田/石田 手渡(認定看護師) 13:30～15:30 完全予約制	豊田/石田 手渡(認定看護師) 9:30～11:00 完全予約制		
ストーマ外来(外科)					谷(認定看護師) 外来診察時間内
禁煙外来(外科)			菰田 弘 13:00～ 完全予約制	守 正浩 14:00～ 完全予約制	
肛門外来(外科)<完全予約制>	守 正浩 14:00～16:00				
助産師外来(産婦人科)		<完全予約制>		<完全予約制>	
性カウンセリング(総合診療室)				大川玲子 8:30～17:00 完全予約制	

## 検査担当医師表

診療科	月	火	水	木	金
胃内視鏡検査 (午前)	金田/菰田	田村 玲	斉藤 正明	阿部 朝美	伊藤 健治
	里見 大介		里見/土岐	福富 聡	
大腸ファイバー(午後)	内科交替医	外科交替医	外科交替医	外科交替医	内科交替医
超音波	腹部	菰田 弘	阿部 朝美	田村 玲	伊藤 健治
	心臓				山田 善重 <第2・4木曜日> 午前
					杉浦/金田 高見 徹

## 編集後記

2016年は「申年」…十二支の9番目の干支「申(さる)」ですが、漢字の「猿」ではなくて「申」か知っていますか? 実は…「申」と「猿」はまったく関係はないのです!(年賀状には猿のイラストや写真を使うのに) 有力な説として、干支の十二支を広く庶民にも理解してもらい、昔は字を読めない人も多かったため、わかりやすく憶えやすくするために、「申」には動物の猿を割りあてたと言われています。  
申年は、「申(サル)」が「去る」という意味を表し、「悪いことが去る」や「病が去る」など良いことや幸せがやってくるという年とする一説があります。そして、日本のある地では、「申年に赤い下着を贈ると病が治る」「申年に贈られた下着を身につけると元気になる」など昔からの言い伝えがあり、現在でも信じられています。縁起が良いとされる赤い下着…。あなたも申年に、良いことがあるように、幸運を引き寄せるために、「赤い下着」を両親や兄弟、大事な人に贈ったり、あなた自身も身につけてませんか(^ ^) (K)

## 【編集委員名簿】

(編集長 杉浦 信之)  
(副編集長 三井 光義)  
(木村 寿) (伊藤 博)  
(打矢 直記) (奥澤 武幸)  
(森 由美子) (佐藤 厚子)

外来診療担当医師表 “聞く” “聴く” “訊く” の対応を! 平成28年1月1日より

診療科		月	火	水	木	金	
受付時間は原則として、平日(月曜日から金曜日)の8:30から11:00まで							
内科	新患	杉浦信之	杉浦信之	杉浦信之	森 泰子	斉藤正明	
		斉藤正明	斉藤正明	石田琢人	田村 玲 (第1・3木曜日)	岡澤哲也	
				菰田 弘 (第2・4木曜日)			
	再診	呼吸器内科 新患は紹介制	丸岡美貴	西村大樹	江渡秀紀	丸岡美貴	江渡秀紀
		消化器内科 (消化管、肝、胆、胰)	安田直史	栗山 彩花	栗山 彩花	西村大樹	安田直史
	総合内科	伊藤健治	金田 暁	金田 暁<予約制>	篠崎勇介	阿部朝美	
		田村 玲	大黒 晶子	伊藤健治	西村光司	明杖直樹	
				阿部朝美			
				金子達哉 (第1・3水曜日)			
糖尿病代謝内科	新患は紹介制	島田典生	石塚伸子	島田典生	後藤茂正 (血液)	石田琢人	
					岡澤哲也	島田典生	
神経内科	新患は紹介制・予約制	中村圭吾	古本英晴	中村圭吾	由井健智	大原恵美	
精神・神経科	再診 再診患者のみ	海宝美和子	中山 裕一 (午前)	海宝美和子	中山 裕一 (隔週)	三津間 さつき	
					穂永 りみ (隔週)		
循環器内科	新患は紹介制 月曜日は完全予約制	高見 徹 <完全予約制>	久保健一郎 受付は10時まで	宮澤一雄 受付は10時まで	高見 徹 受付は10時まで	中里 毅 受付は10時まで	
小児科		重田みどり	新井ひでえ	重田みどり	重田みどり	新井ひでえ	
外科・消化器外科		森嶋友一	[交替医]	豊田康義 (緩和ケア)	小林 純	[交替医]	
		福富 聡		山本海介	里見 大介		
		榊原 舞		利光靖子	土岐 朋子		
		守 正浩		石毛孔明			
乳腺外科	紹介制・完全予約制	鈴木正人	鈴木正人	手術日	鈴木正人	鈴木正人	
		中野茂治	中野茂治		中野茂治	中野茂治	
		大河昭彦	[交代医]	大河昭彦	村上宏宇	[交代医]	
整形外科		阿部 功	手術日	阿部 功	白井周史	手術日	
	火・金の受付は10時まで	村上宏宇	受付は10時まで ※新患のみ	佐久間詳浩	佐久間詳浩	受付は10時まで ※新患のみ	
		白井周史		縄田健斗	縄田健斗		
股・膝関節外来	完全予約制			阿部 功 (股関節) 14時～15時30分	白井周史 (膝関節) 13時30分～15時		
形成外科	木曜日は完全予約制	手術日	鈴木文子 三木規子	手術日	[交代医] <完全予約制>	鈴木文子 三木規子	
脳神経外科		丹野裕和	丹野裕和	丹野裕和	手術日	尾崎裕昭	
		尾崎裕昭	川崎宏一郎	大石博通		川崎宏一郎	
呼吸器外科		斎藤幸雄	手術日	斎藤幸雄	斎藤幸雄	手術日	
					芳野 充		
心臓血管外科				平野雅生		増田政久	
皮膚科	受付は10時まで 月・木は完全予約制 新患は診療制限あり	秋田 文 <完全予約制>	秋田 文	秋田 文	角田寿之 <完全予約制>	秋田 文	
泌尿器科	新患は紹介制 水曜休診 金曜の受付は10時まで	佐藤直秀	一色真造	手術日	佐藤直秀	[交替医] 手術日 受付は10時まで	
		川名庸子	櫻山由利		川名庸子		
		一色真造			櫻山由利		
		宮内武弥					
産婦人科	新患受付は月・水・金(紹介制)	岡山佳子	<完全予約制>	岡嶋祐子	<完全予約制>	岡嶋祐子	
		山縣麻衣				山縣麻衣 (産)	林 若希
		黒田香織 (産)				岡山佳子 (産)	
眼科	新患は紹介制 再診は予約制 受付は10時まで	新井みゆき	根岸久也	根岸久也	[交替医]	根岸久也	
		窪田真理子	新井みゆき	新井みゆき	手術日	窪田真理子	
		大岡恵美	窪田真理子	大岡恵美	※新患のみ	大岡恵美	
		戸辺 文	窪田真理子	戸辺 文		戸辺 文	
頭頸部外科・耳鼻咽喉科	新患は紹介制 再診は予約制 火・水の受付は10時まで	渋谷真理子	渋谷真理子	[交替医]	手術日	鈴木 誉	
		坂本夏海	鈴木 誉	手術日		坂本夏海	
		藤川 陽	受付は10時まで	受付は10時まで ※新患のみ		藤川 陽	
放射線科	治療	酒井光弘<予約制>		酒井光弘<予約制>		酒井光弘<予約制>	
歯科口腔外科	再診は予約制	中津留 誠	中津留 誠	中津留 誠	中津留 誠	中津留 誠	
		嶋田 健	嶋田 健	嶋田 健	嶋田 健	嶋田 健	
		坂詰智美	坂詰智美	坂詰智美	坂詰智美	坂詰智美	
病理診断科		<完全予約制 (月～金)>					

※専門外来・検査担当表は11ページに掲載しています。